

台風17号に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課



台風17号が北上しています。
本県には10月1日頃に接近する可能性があります。
(台風の経路図は気象庁ホームページより引用)

台風接近前から大雨や暴風に警戒が必要です。今後の台風情報に留意し、農作物等の管理には万全を期してください。

水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所には近づかないでください。

なお、台風通過後は再び高温となるおそれがありますので、
8月9日発行の農業技術情報第5号「梅雨明け後の高温乾燥条件下における農作物等の技術対策」に基づき、対策を徹底してください。

1 水稲・大豆・そば

(1) 事前対策

- ア 増水に備え用排水路を点検し、ゴミ等を取り除いておきましょう。
- イ ほ場の排水対策を徹底しましょう。

(2) 事後対策

- ア 台風通過後は、コンバインが入れるほ場から速やかに収穫しましょう。作業前には、流木等の異物が流入していないことを確認し、安全に作業を行いましょう。
- イ 倒伏したほ場では刈り分けを行い、丁寧な収穫作業を行うことで泥の混入が無いよう注意しましょう。
- ウ 収穫後の乾燥・調製作業は丁寧に行い、品質向上に努めましょう。

2 野菜・花き

(1) 事前対策

ア 共通

- (ア) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害のおそれがある地帯では強制排水のポンプも準備しておきましょう。
- (イ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。

- (ウ) パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニルの破損があれば補修しましょう。
- (エ) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋交いを入れ、補強しましょう。
- (オ) 施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。
- (カ) 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。
- (キ) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。
- (ク) は種期や定植期となっているものは、台風通過後に実施しましょう。

イ 野菜

露地きゅうりやさやいんげんは、支柱やネットにしっかりと誘引しておきましょう。なすやピーマン、アスパラガスは、支柱やフラワーネットを点検し、倒伏を防止しましょう。

ウ 花き

露地栽培では、フラワーネットや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

(2) 事後対策

ア 共通

- (ア) 停滞水は、明きょなどで速やかな排水に努めましょう。
- (イ) ネギやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょう。
- (ウ) 台風通過後は、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

イ 野菜

- (ア) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復させましょう。
- (イ) マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチを一時的に取り除いて乾燥させましょう。
- (ウ) 果菜類は、損傷を受けた果実は早急に摘果しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- (エ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。
- (オ) 収穫した野菜は傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、被害品は出荷しないようにしましょう。
- (カ) 冠水時間が長く回復の見通しが無い場合は、他作物への転換やまき直しを行いましょう。

ウ 花き

- (ア) キクやリンドウなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行い、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょう。
- (イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

3 果 樹

(1) 事前対策

- ア 現在、収穫期に入っている果樹では、強風による落果や傷害が懸念されるので、収穫可能な果実は事前に収穫しましょう。
- イ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束しましょう。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにしましょう。
- ウ りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しましょう。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認しましょう。
- エ 果樹棚（なし、ぶどう等）等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行いましょ。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。
- オ 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。
- カ モモせん孔細菌病は、台風風雨により落葉した場合、落葉痕からの感染が多くなるので、台風の接近前に必ず防除を実施しましょう。
- キ ナシ黒星病は、10月中旬頃頃から翌年の芽基部病斑の原因となる感染が多くなるため、台風の接近前にできるだけ追加の秋期防除を実施しましょう。
事前に防除を実施できなかった場合は、台風通過後に速やかに行いましょう。

(2) 事後対策

- ア 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょう。
- イ 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。
- ウ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施しましょう。
- エ 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行いましょ。
- オ 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定しましょう。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促します。大枝が裂けた場合は、ボルトやかすがい等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させましょ。
- カ 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーヤ等で散水し、樹体温を下げるるとともに湿度を維持し、被害の軽減を図りましょ。

4 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

- ア 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊、及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行いましょ。
- イ 入り口等が開放されている飼料の保管場所では、飼料をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしてください。
- ウ 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょ。
- エ あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょ。
- オ 水はけの悪い草地や飼料畑には明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょ。

(2) 事後対策

- ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- イ 台風の通過後は気温の変化が大きくなるおそれがありますので、家畜の採食量や反芻などの行動をよく観察し、異常や疾病の早期発見・早期治療に努めましょう。
- ウ 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょう。
- エ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。
- オ 収穫期を迎えた飼料用トウモロコシが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょう。

調製にあたっては、土砂等が混入しないよう収穫作業を行うとともに、水分調整の実施や、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加するなどして、サイレージの品質向上に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>